



今回は、2年3組のフィールドワークの報告をします。

◇ 私たち1班は勸修寺を訪問しました

研究テーマ：子ども食堂

日時：2019年8月6日、7日(火、水) 13:00 ~ 16:00

訪問先：関市小屋名 勸修寺

参加者：荒金草介 高場伊吹 那須優花 前田結衣 山田桃々華

◇ フィールドワークを通して学んだこと・感想



夏休みの宿題サポートの後、夕食づくりを行いました。勸修寺でのこの活動は、「いちょうの会」という地元の方10名ほどのボランティアによって運営されています。気軽に利用できるアットホームな空間は、多くの人を笑顔にしています。現在は週2回の活動ですが、関高生ボランティアにより人手不足を補うことで開催日を増やし、地域の持続的な活動にしていきたいと考えています。



SDGsのロゴより

◇ 私たち2班はのぞみ教室を訪問しました

研究テーマ：多文化共生と教育のつながり

日時：2019年9月31日(月) 8:30 ~ 15:00

訪問先：美濃加茂市のぞみ教室

参加者：市原紗利奈 稲川温 小原周也 小林大輝

◇ フィールドワークを通して学んだこと・感想



私たちは、のぞみ教室で外国人児童に算数と国語を教える体験をしました。そこでは、児童のほとんどが日本語を話せないため、意思の疎通が難しく感じました。また、先生の人数が足りなく、1日の休憩時間がほとんどなかったため、かなり疲れを感じ、大変だと思いました。フィールドワークを通して外国人児童に対する教育の実態を知ることができ、とても良い経験になりました。





今回は、2年3組のフィールドワークの報告をします。

◇ 私たち 3 班は岐阜大学教育学部を訪問しました

研究テーマ： 関高を改善する

日 時： 2019 年 7 月 25 日(木) 13:30 ~ 15:30

訪問先： 岐阜大学教育学部

参加者： 中村匡秀 羽田野智子 松野心香 森悠加 和田茉里奈

◇ フィールドワークを通して学んだこと・感想



必要とされる授業、教材

従来の一方的な情報の享受ではなく、生徒と教師、生徒と教材と、相互にやりとりのできる授業形態、教材のスタイルが求められている。

授業と課題の内容を入れ替える反転授業や、電子黒板やタブレット端末といった ICT の活用などが今後の教育の発展に繋がっていくだろう。授業に求められるテーマとして、アクティブラーニングが挙げられる。受信と発信を相互に行い自他の考えを総合してよりよい形を作っていく授業が理想で、読む、調べるといった個人作業を授業外の課題として行い、授業はグループワークを中心に進めていくことで、生徒の自主性を尊重した授業形態を作り出すことができる。

今回のフィールドワークを通して学んだ理想の授業形態は、生徒へのアンケート結果に見られた理想の授業の形態と似通っているように思えた。生徒側も自主的に学べる授業を求めているなら、アクティブラーニングを授業に反映することで生徒の意欲が高まり、授業が活発になっていくかもしれない。



◇ 私たち 4 班は関市市役所を訪問しました。

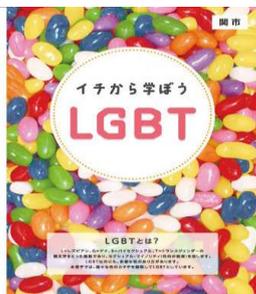
研究テーマ： LGBT

日 時： 2019 年 8 月 2 日(金)

訪問先： 関市市役所

参加者： 赤羽葉那 岩井萌々子 梅田蒼太 小林未紗 藤田愛唯

◇ フィールドワークを通して学んだこと・感想



わたしたちは、関市役所に訪れ、市内で行われている LGBT への取り組みを市役所のかたに教えていただきました。

わたしたちが思っていたより多くの LGBT についての取り組みが行われていることを知り、LGBT について考えを深めることができました。



お話の中で保護者の方の LGBT についての理解が必要であることに気づき、保護者向けのパンフレットを作成することにしました。また、LGBTのかたに対する配慮が必要不可欠であると考えました。

画像 <https://divercity-expo.com/join/seki> より



今回は、2 年 3 組のフィールドワークの報告をします。

◇ 私たち 5 班は、岐阜県ユニセフ協会を訪問しました

研究テーマ：きれいな水を世界中に

日 時：2019 年 8 月 7 日(火) 10:30 ~ 12:00

訪問先：岐阜県ユニセフ協会

参加者：加藤 藤 河村 なつみ 末武 正剛 村井 梨華 村土 拓駿 山越 琉偉 山下 楓奏

◇ フィールドワークを通して学んだこと・感想



世界には、環境が悪くて苦しんでいる子供たちがいる。日本ユニセフ協会は、そのような子供たちの支援を行っている。

- ・汚染された水をきれいにするための薬
- ・一食で十分な栄養が取れる食べ物
- ・勉強道具を渡すシステムなどの支援があることが分かった。

そこで私たちが苦しんでいる子供たちのためにできることは、募金活動だと考えた。具体的に、・100円で6回分のワクチン、・500円で31袋分の経口補水塩などがあげられるので、募金するお金が安くても、子供たちのためになるので積極的に募金活動に取り組むことが大切だと思った。このようなことを知らない人が、私たちの周りにはたくさんいるので、その人達にもっと知ってもらうために、影響力のある大人に広めてもらったり、新聞に募金活動の現状について掲示してもらうことが良いと思う。

画像 <http://www.alterna.co.jp/23883> より



◇ 私たち 6 班は岐阜県庁教育環境推進課を訪問しました

研究テーマ：先生を助けよう！

日 時：2019 年 8 月 19 日(月) 13:00 ~ 15:00

訪問先：岐阜県庁教育環境推進課

参加者：川村 絢音 田谷 彩奈江 松島 由季 渡邊 みき

◇ フィールドワークを通して学んだこと・感想



教職員で現在は県庁の職員の方々の話を聞いて、現在の教員の働きの実態だけでなく、県が時間外労働の対策としてどのようなことを実際に行っているのか、または実施しようとしているのかを学ぶことができました。もちろん学校が変えていくべきことはありますが、私たちができることもあると思います、例えば私たち生徒が熱心に勉強することで再試の人数を減らし丸付けや監督といった労力を削減できます。

また土日出勤の主な要因である部活動の対策も聞きました。去年、今年と部活動外部指導員の方々を一部の学校に派遣しましたが費用的な問題もあり県下全ての学校への派遣は難しいそうです。

県庁の方の話を聞いて、私たちの理想と現実にギャップがあると痛感しました。ただ、その状況を是正することは私たち生徒でも上にあげた通り可能なので日々の生活の一つ一つの行動に意義をもって学校生活を送りたいと思いました。





今回は、2年3組のフィールドワークの報告をします。

◇ 私たち 7 班は名城大学、国会議事堂を訪問しました

研究テーマ：マイクロプラスチック

日 時： 2019 年 8 月 8 日(木) 9:00 ~ 17:00、8月19日(月) 10:00~12:00

訪問先： 名城大学、国会議事堂(OCEAN's47)

参加者： 有賀勇人 嶋寺良太 幸谷聖奈 竹内俊颯 森壮一郎 山中元太

◇ フィールドワークを通して学んだこと・感想



まず、名城大学では川や海について研究していらっしゃる谷口先生のお話を聞きました。その時の愛知県の川での実験結果についての話から、肥料の使用によって畑から流れ出るプラスチックがあることを学びました。それまでは、川のプラスチックごみがポイ捨てや、工場からの流出物による物だというイメージだったので驚きました。また、実際に川で採取されたサンプルや、プラスチックの種類を判別する機械も見せていただきました。珍しいものも多く、勉強になりました。

国会議事堂での、OCEAN's 47 のイベントでは岐阜県代表として東京大学大学院の教授などの専門家のお話を聞きました。そこでは今のプラスチックごみ汚染の現状の深刻さを知りました。様々な対策をしている企業のお話も聞きましたが、消費者である私たち 1 人 1 人が行動していくことが大切だと思いました。



◇ 私たち 8 班は名古屋大学篠田研究所を訪れました

研究テーマ：砂漠化問題の啓発

日 時： 2019 年 7 月 30 日(火) 16:00~17:30

訪問先： 名古屋大学大学院環境学研究科篠田研究所

参加者： 石原大地 神田翔太 柘植幹大 羽田野寛朗 濱本一歌

◇ フィールドワークを通して学んだこと・感想



日本人が身近に感じにくい砂漠化という問題について少しでも問題意識をもってもらうため、日本人に関係のある砂漠化の影響について教授とともに考えた。得ることのできた視点は二つ。一つは日本にも飛来する黄砂とそれによって引き起こされる人体への害について。もう一つは砂漠化による土地劣化に起因する作物収穫量の減少による日本の食糧危機の可能性である。教授のお話を聞き、私たち自身も初めて事態の重大さに気付けた面もあった。関係しているという意識をもって種々の情報に触れるのが大切である。

